

運転適性診断

あなたの安全運転についての診断結果は、次の通りです。
 所見欄に示されているような運転行動についての傾向がうかがわれます。
 よく読んで安全運転に役立てていただきたいと思います。
 今後とも、安全運転をお願いします。

成績結果表のなかの文字や数字は、次のような意味を持っています。
 なお、評価値 3・4・5は、その行動要素に関し問題のないことを示し、
 評価値 1・2は、要注意であることを示しています。

行動要素名 検査名 反応値 評価値

氏名 小田島 直樹 年齢 52 歳 検査日 2017 年 01 月 21 日

反応動作の速さ

反 射 的 反 動	緊急反応検査	0.32 秒	2
	連続緊急反応検査	0.26 秒	3

判 断 的 作 動	信号確認検査	秒	
	アクセル反応検査	0.37 秒	4
	フクセル・ブレーキ検査	秒	

所見 あなたは、反応動作の速さが適度で問題はありません。ですが、油断は禁物です。気持にゆるみがあるると対応に遅れ、あなたは、反応動作の速さに問題がなく、良好といえます。ますが、運転するときは体調を整え、いつも適度な気持の張りをも危険な目に会います。そして、からだの不調は、大敵です。運転するときには体調を整え、いつも適度な気持の張りを早くつようようにしてください。急ブレーキ気味、急ハンドル気味の運転となつていことに気づいたら、いつも自分の自己を取り戻すようにし、またできるだけ先の交通状況を見るようにして、余裕のある運転となるよう心掛けてください。

適度な精神緊張の維持

反応むら	緊急反応検査	0.13 秒	3
	連続緊急反応検査	0.11 秒	4
		信号確認検査	秒

反応むら	アクセル反応検査	0.19 秒	5
	フクセル・ブレーキ検査	秒	
弛緩反応	連続緊急反応検査	0.32個=秒	4

所見 あなたは、いつも適度な構えで、そのときの状況で速い、遅いということではなく、むらなく反応できるといえます。運転中は、なにか起こるかかわりません。いつでも、どのようなことにも即座に、適切に対応し、処理しなければなりません。あなたは、大抵の多くの状況に対し、むらなく速やかに対応でき、問題ないといえます。しかし、体調をくずしていたりすると、見落としをしたり、気力のゆるみから対応に遅れを生ずることがあります。いつも安全な良い運転をするには、体調を整え、気持のコントロールをしておくことが大切です。

動作の確かさ

焦躁反応	連続緊急反応検査	0.26 個=秒	3
誤反応	信号確認検査	個	

誤反応	アクセル反応検査	0 個	5
	フクセル・ブレーキ検査	個	

所見 あなたは、どのような場面でも落ち着いて対応でき、誤りなく処理できるといえます。どのような場面にもこまめに落着いて、自動車の交通場面は、予測もつかないほど複雑に、激しく変化しています。どのような場面にもこまめに落着いて、問題のどのような状況であるかをよく理解し、間違いないで処理しなければなりません。あなたは、このように問題はありません。しかし、体調をくずしていたり、常々運転感度を高めておくようにしてください。

注意の配分/認知注意の集中分散

誤 反 応	側方警戒検査	3 個	4
	周辺部分	0 個	5
		全領域	3 個

反応速度	側方警戒検査	0.51 秒	5
バランス	ハンドル操作検査	116	L3

所見 あなたは、あらゆる状況を見落とすことなく、まっぴんなく注意が行き届き、注意力に優れているといえます。運転中は、いつの間に発生するかわかりませんが、前方だけでなく、いろいろなと心を配らなくてはなりません。あなたは、いつの間に、かたよりに適度に注意を向けたり、問題はありません。しかし、気分が重いとときどき、気持のコントロールを心掛け、適度に心を引き締め、こまかいことも見落とさないよう注意力を高めるようにしてください。

状況処理の巧みさ

節約率	ハンドル操作検査	10.2	3
バランス	ハンドル操作検査	116	L3

操作の速さ	ハンドル操作検査	56 個	3
	Lが付くと左への注意の偏りがあります。		

所見 あなたは、どのような場面に対しても、片寄りなく機敏に対応し、巧みな処理ができるといえます。運転中は、いつの間に起こるかかわりませんが、交通状況はつきからつきと激しく変化し、同じ状況でいることはありません。あなたは、それを上手に、機敏に処理できるといえます。しかし、体調をくずしていたり、気がかりなことがあると、注意が偏り、見落としが多くなり、反応が遅れがちなります。運転が荒くなったと思ったら、いつもの自分を取り戻すようにしてください。いつも体調を整え、気持をよくコントロールしておくよう心掛けてください。

総合所見

総合判定

5

あなたは、行動機能に優れており、良い運転ができるといえます。とれている状況に合った必要です。たとえ遅れ目の動作であっても、対応、処置は、そのとき状況に合っていないければなりません。反応動作の速すぎはむしろ邪魔といえます。体調をくずしていたり、気がかりなことがあると行動のバランスがくずれます。運転にさいしては、心身をよくコントロールしておくよう心掛けてください。